

MiLB 本拠地の立地条件と観客増員策の日本プロ野球 2 軍での実行可能性

トップスポーツマネジメントコース

5015A318-2 福田 岳洋

研究指導教員：平田 竹男 教授

【背景】

国内外における多くのプロスポーツには下部組織が備わっている。筆者自身もプロ野球選手として、1 軍と下部組織である 2 軍の両方を経験し、2013 年に引退した。

1 軍と 2 軍の試合を経験し一番の違いは観客数の違いであった。実際、2015 年の 1 軍の平均観客動員数は 28,240 人、2 軍は 745 人であった。

一方、アメリカの MLB の下部組織である MiLB に目を向けると、2 軍にあたる 3A 球団においても 9000 人以上の平均観客動員数を誇る球団も存在していた。

元 MiLB 球団職員によると、MiLB では観客を増やすために年間通して地域密着を行っている事や、観客に対して常に $+\alpha$ のサービスを提供する等、日本の 2 軍ではあまり熱心に取り組まれていない手法が取り入れられていることが分かった。

選手のモチベーションアップにもなり、球団の普及にも好影響が期待されるプロ野球 2 軍の観客数増加のための取り組みの必要性を強く感じた。

これまでも、Arthur T. Johnson ら(1993)のマイナー球団の設置が地域活性につながるといった研究や、石原ら(2011)による MiLB の持続的経営に関する研究はあった。しかし、MiLB で取り組まれている内容が実行可能なのか、MiLB と 2 軍での試合開催時間やホームグラウンドなど観客動員に関与すると思われる具体的な項目の違いについての十分な情報がない。

【研究目的】

本研究の目的は MiLB 本拠地の立地条件を明らかにし、観客増員策の日本プロ野球 2 軍での実行可能性を明らかにする。

【研究手法】

1. MiLB に関する調査

1) 対象：MiLB の 3A における 30 球団

2) 調査項目

A) 都市人口

B) MLB 本拠地との位置関係

C) スタジアム規模と稼働率

D) 試合日程

E) その他プロスポーツとの比較

3) 調査方法：公式 HP、文献等により調査

2. 日本プロ野球の 2 軍に関する調査

1) 対象：NPB の 2 軍における 12 球団

2) 調査項目

A) 都市人口

B) NPB1 軍本拠地との位置関係

C) スタジアム規模と稼働率

D) 試合日程

E) その他プロスポーツとの比較

3) アンケート

A) 対象：2015 年 11 月時点での現役選手

B) 収集データ：試合環境、練習環境、球団が行っているファンサービスの現状等

【研究結果】

1. MiLB の現状

A) 立地条件

全米 50 州のうち 21 州に MiLB の本拠地が置かれていた。また、傘下の MiLB を近くに置く傾向はなかった。MLB のない州に本拠地を置く球団が 16 球団あり、稼働率の TOP5 には MLB を置かない州もしくは近くの球団と距離が離れている球団が多かった。

		州	MLB	4 大スポーツ +MLS	人口（人）	球場間距離	稼働率
TOP1	シャーロットナイツ	ノースカロライナ州	無	3	809,958	-	92%
TOP2	コロラドスプリングス	オハイオ州	有	7	835,957	174km	89%
TOP3	アイアンビッグス	ペンシルベニア州	有	8	119,104	126km	86%
TOP4	エルパソチワラス	テキサス州	有	10	679,036	1095km	86%
TOP5	ナッシュビルサウンズ	テネシー州	無	3	644,014	-	80%

B) 試合環境

全球団が 90%近い割合でナイター開催をしており、全日程を、本拠地球場のみで開催していた。

C) その他プロスポーツとの関係

同一州内に複数球団あることが多いが、面積が広い
ため他球団の本拠地とは大きく離れていた。

2. 日本の 2 軍の現状

A) 立地条件

本拠地球場は 12 球団中 6 球団が同一県内にあり特
に関東 4 県には 1 軍 2 軍合わせて 11 の本拠地があっ
た。2 軍戦の平均観客動員数は 745 人であった。

B) 試合環境

ナイター設備が備わっている球団は 3 球団しかなく、
多くの試合がデーゲーム開催であった。ホームゲーム
開催での本拠地球場の使用率は 73%であった。

C) その他プロスポーツとの関係

プロ野球球団を置く県は全国に 12 都道府県であっ
た。さらに関東 4 県ではプロ野球球団と J リーグ、bj
リーグを合わせると 26 球団あった。

D) 現役選手へのアンケート調査の結果

1. 試合環境に関して

回答した選手のうち 58%が現在の 2 軍戦の観客数
に不満と感じており、92%が観客の多い中でプレーす
ることがモチベーションの向上につながるとあった。

2. 練習環境に関して

回答した選手のうち 71%が現在の 2 軍の練習環境に
満足しているとあった。

3. ファンサービスに関して

回答した選手のうち 52%が試合前の野球教室を負
担と感じているものの写真会や、グッズ提供に関して
は負担と感じていないとあった。

【考察】

1. MiLB の特徴

MLB がない州や、MLB と離れた都市で稼働率が高
かった。これは MLB の近くに MiLB を置く必要がな
い事が言える。さらに、その他プロスポーツ球団があ
っても稼働率が高いことは、他競技があることによっ
て地域にスポーツ観戦の習慣が出来ていたといえる。

2. 日本の特徴

狭い範囲に 1 軍戦と 2 軍戦があると 1 軍戦を観に行
くと考えられる。さらに 2 軍の本拠地にはナイター設
備がなく平日でもデーゲームでの試合しか開催でき
ないため観客動員数が伸び悩んでいた。

3. 日本での実現可能性

MiLB は MLB のない州、もしくは離れた都市に設
置する傾向があった。稼働率をみると、他のスポーツ
球団がある地域で高くなる傾向があると考えられる。
そのような立地条件を日本に当てはめると、大都市か
ら少し離れた都市が良いといえる。日本では年間 100
試合以上地方球場で 1, 2 軍の公式戦が開催されてい
る。これらの県ではナイター設備が備わっており、多
くの人数を収容できる MiLB 並みの球場がある。その
ため 2 軍本拠地の新たな再立地候補として現在使用さ
れている地方球場の都市を挙げる事が出来る。

【結論】

MiLB の本拠地は MLB のない州に設置する傾向が
あった。そのため 2 軍の再立地の実行可能性としては、
1 軍の本拠地との距離が近過ぎず、収容力がありナイ
ター設備を有する球場のある都市が良いと考えられ
る。現在、地方巡業にて使用している球場を本拠地と
する事によって新たに多くの観客を手に入れること
ができ、さらに選手の育成にも好循環につながるとい
える。